

# メディカルはこだて

Medical Hakodate

2024  
December

90

高橋病院は市内時任町へ新築移転

函館医療センターの新院長に就任

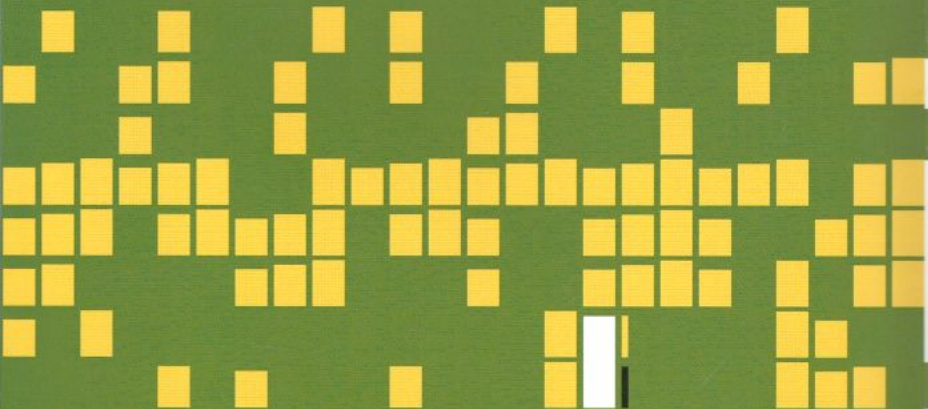
日本胃癌学会は「施設認定制度」をスタート

鼻に噴霧するインフルエンザワクチンの接種開始

市立函館病院はRPA導入で年間3873時間の業務削減を達成

函館市は病児保育施設を市立函館病院内に開設

住み慣れた自宅で、自分らしく生活



# 高橋病院は市内時任町へ新築移転

リハビリ部門を拡充し、広いコミュニティスペースを確保



高橋病院理事長 **高橋 肇**

新病院の建物の特徴的な外観はクラスター型と呼ばれる独特な形をしている

高橋病院は2023年6月に着工した市内時任町への移転新築工事が完了、2024年10月1日から新病院での診療を開始した。明治27年高橋米治医院の開院が出発点の同病院は、建物の老朽化などが移転の理由だった。「地域住民に愛される信頼される病院」を理念に掲げ、地域全体でリハビリテーションを中心とした医療福祉ネットワーク事業を展開。法人施設内外の継ぎ目のないネットワーク構築や、患者サービス向上の手段としてIT活用を積極的に進めており、平成20・21年度には2年連続で経済産業省「IT経営実践認定組織」に選ばれている。

回復期リハビリテーション病棟を60床から80床に増床

新病院は鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積は旧病院の約1.5倍の1万6700平方メートル。病床数は旧病院と同じ119床。回復期リハビリ

テリション病棟を60床から80床に20床の増床、地域包括ケア病棟は59床から20床減らして39床とした。介護医療院の60床はそのまま。標榜する診療科目は従

来の内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、整形外科、リハビリテーション科のほか、新たに泌尿器科が加わり、9科目となった。

新病院の1階は、外来や検査室、訪問診療室、総合支援センター、コミュニティスペースなど。2階は回復期リハビリテーション病棟が2病棟とリハビリテーション室。3階は地域包括ケア病棟と介護医療院。4階は医局や会議室、事務室、職員専用ラウンジなどが設けられている。建物の特徴的な外観はクラスタ型と呼ばれる独特な形だ。同病院の高橋肇理事長は「クラスタ」というのは複数の原子分子が集まって構成される集合体を意味します。病棟の中央にスタッフステーションを配置、その周囲に病床群を配置する構造となっていますが、クラスタ

1型は各病室への導線を最も短くする構造で、特に感染が発生した際に集中管理しやすくなります」と話す。

### 回復期リハビリ病棟とリハビリ室は同じフロアに設置される

新病院ではナースステーションという言い方ではなく「スタッフステーション」とした。広さは従来の1.5倍。ナースステーションは医師と看護師などに限定されるが、新病院では看護部門とリハビリテーション部門とが統合されるなど、セラピストやワーカー、薬剤師、検査技師など、病院のさまざまな職種が横のフラットな関係を構築し、スタッフステーションで患者の情報を共有している。「情報の共有ツールは当院で作ったオリジナルのソフトウェアをITで管理して運用しています。旧病院では狭くてできなかったことが可能になりました」

2階は回復期リハビリテーション病棟の病室が南北にそれぞれ

40床ずつ配置され、中央には全面ガラス張りのリハビリテーション室が設けられた。「スタッフと患者さんの距離が短いことは双方にメリットがあります。回復期ではリハビリが必要不可欠ですが、旧病院では病棟からリハビリ室があるフロアまで移動するなど縦の動きが必要でした。新病院では回復期リハビリとリハビリ室は同じフロアに設けられるなど、リハビリ室への動線にも十分に配慮をされています」。動線が短縮されることでスタッフの作業効率も大幅に向上した。

### 最新機種のドライビングシミュレーターを設置

2階にはドライビングシミュレーターや天井走行型免荷ローラーなどの最新機器も充実している。「今回導入したドライビングシミュレーターはホンダが開発した医療機関向けの最新機種で、道内では一番新しいモデルだと聞いています。車を運転していた高次脳機能障害などの人

を対象とし、アクセル、ブレーキなど実車と同じ部品を多く採用、運転に関わる動作や反応速度の測定データを数値化して運転能力を客観的に比較・評価できることから高い評価を得ています。早くも市内の病院から使用のリクエストも来ています」

### コミュニティスペースにセラミックボールの足湯ベット面会スペースも

1階に設けられたコミュニティスペースは160平方メートルの広さがある。「これだけの広さがあるコミュニティスペースを有する医療機関は全国でも珍しはずです。地域の人や近隣の学生、患者さんと家族が談笑する場所、誰でも自由に集える交流の場として活用します。また、入院患者さんが住民と関わることで、在宅支援につなげていくことも考えています」

10月16日、コミュニティスペースにて第1回健康サポート教室が開催された。地域住民約20人が参加し、このスペース担当

5人の一人である作業療法士の指導の下、熱心に体を動かしていた。健康サポーター教室は地域リハビリテーションの一環として実施・継続する方針だ。「新病院のある時任町は中部高校や巴中学が立地する文教地区です

から、学生の発表の場、また学生と地域の高齢者などとの世代交流ができる場所、町会の催し、お子さんたちの居場所など、スペースの活用を積極的に推し進めていきます。休日のみならず夕方以降もここで勉強されている学生さんが徐々に増えてきました。広報の結果、認知度が少しずつ上がっているのではと思っています」

コミュニティスペースにあるお湯のいらぬ足湯も人気だ。「特殊セラミックボールを使った足湯をコミュニティスペースに設けています。特に寒い時期になると、近所の高齢者の方や外来の患者さんがよく利用しています」

ペットを飼っている人が多いが、入院中はペットに会えないことで、飼い主ばかりかペットもストレスを感じる可能性が指

摘されている。「ペットは家族の一員として暮らす人が多くなっています。ペットと病室で会うのは問題がありますので、1階にペットとの再会の場所として『ペット面会スペース』を新たに設けました」

### 急性期病院とは機能分担と連携を進展させることで地域医療に貢献

高橋理事長は「暮らしを支え、

未来に貢献するために従来のリハビリテーションを軸として、在宅医療にも積極的に取り組んでいる」と説明する。現在、医師8人が約360人の在宅患者を担当しているが、訪問診療のリクエストは非常に多い。

新築移転先は急性期病院が近隣にあることで、入院患者数も増加している。急性期病院との連携では、函館五稜郭病院と肺がん患者の術前・術後リハビリテーションの連携を開始した。

「術前、術後のリハビリを急性期病院と回復期病院とが連携するのは、国内では他に例がない取り組みで全国的にも非常に注目されています」。肺がん以外でも急性期病院を退院した患者のリハビリを依頼される例は増えている。

また、国の推し進める全国医療情報プラットフォーム構築の一環として、国立函館医療センター、森町国保病院の2病院と共に電子カルテ情報共有サービスのモデル地区（全国10か所）として選出されたため、全国に先駆けた標準様式を用いたオンライン連携を構築する予定となっている。

「当院には9つの診療科がありますので、病気の種類や程度によっては外来診療について当院が果たせる役割は小さくないと思っています。急性期病院とは機能分担と連携を進展させることで、地域医療に貢献できる病院としての役割を積極的に果たしていきます」



高橋病院の高橋理事長（病院4階の理事長室にて）